

1/31(土) まいじ! 倫理の日です。早くも1月も今日が終り。
季節の変わり目、梅の花も干らう。

今週の倫理 910号 共存共栄って何々懐が深 2015.1.31 ~ 2.6

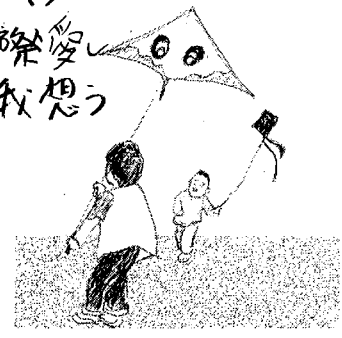
1月のテーマ

先を見る目

共存共栄こそ 経営の柱

なにかと来ないで済むが、足元を固めて生き延びたいものが、
2月度の一句 "寒椿き散" 際愛し 我想う

幸や運ぶアホ鳥



え・古屋智子

1 月のテーマ「先を見る目」
は、今号が最終となります。

先を見る目、すなわち「先見」を
辞書で引くと、「事があらわれる前に
見抜くこと。さきを見通すこと」と
あります『広辞苑』。

また、中国の歴史書『後漢書』(こ
かんしよ)には、「先見の明」とい
う言葉があります。これは「事が起
こる前にそれを見抜く見識」とい
う意味です。見識というからには、単
に先を見るだけではなく、すぐれた
判断力、物事の本質を見抜く力が求
められます。

かつてF市でカラオケボックスを
開店したT氏を紹介しましょう。
当時は、カラオケボックスが世の
中に登場したばかりの時代です。今
のように部屋から飲み物を注文する
仕組みではなく、利用者は自分で飲
食物を持ち込んで、カラオケを楽し
んでいました。

T氏がカラオケボックスを開店後、
近くにあるコンビニエンスストアの
売り上げが急上昇しました。カラオ
ケの利用者が飲食食品を買い込むよ
うになったからです。

T氏は、自社ビル内にコンビニを
誘致することを考えました。カラオ
ケ利用者の数を考えると、十分に売
り上げを上げられそうです。しかし、
その一方でこう考えました。

「同じ町内にあるコンビニの売り上
げが減少しては申し訳ない」
T氏はさっそく市場調査を開始し
ました。自社ビルとコンビニの来客
はどの地域の人が多く、どの方向か
ら来店するのかを調査しました。

その結果、今すでにあるコンビニ
の主な客層は、自社のカラオケに來
る人のルートからは外れていること
がわかったのです。

「これなら、あのコンビニの売り上
げも急に下がることはない。カラオ
ケができる前の業績以下にはならな
いはずだ」とT氏は判断しました。
そして、自社ビルにコンビニを開店
させたのです。

カラオケに來る客は、ビル内のコ
ンビニで買い物をするようになりま
した。一方、近所のコンビニも、カ
ラオケ客の売り上げは減ったものの、
既存の客層は変わらず、以前の売り
上げを保っていました。結果的に、

客を奪い合うことなく、二店とも業
績は順調だったのです。地域の人の
とっては、コンビニが増えたことで
より便利になりました。

商売をする上で、ややもすると、
「わが社さえ良ければいい」と考え
がちです。しかし、仮にこちらだけ
が儲けて、相手が潰れてしまえば、
共に栄えたことにはなりません。競
い合うことによる張り合いもなくな
り、結局は、自分の商売自体も沈滞
してしまふものです。

社会に貢献できることをめざし、
より多くの人から喜ばれるよい製
品を作り、よい方法で売るように互
いに競い合うのが共存共栄(きょう
そんきょうえい)である。社会生活
はこれによって成り立つ。もし大型
店舗ができたとしても小売業者も
それで発奮して、より独得な、よい
商品を売るように工夫すれば、決し
て客は減らない。現実にはそうした商
店街が、いくらかもある。大も小も
共に繁昌している。

『世紀の歩調』丸山竹秋著
共存共栄を実践した、T氏の「先
見の明」に学びたいものです。